

## ■ 古い街並みへ誘う駅前輪場

駅前ひろばの次代の周辺環境・景観を考え、抑制の効いた建築として駅前輪場を計画。  
古い街並みのように軒を連ね高さを抑えつつ、軒先は圧迫感を軽減させるため金属葺きとし軽やかにした。  
存在を小さくしながらも、防犯上見通しのきく板壁として暗褐色の木格子を設置した。木格子の内側に見える構造材・軒天材は着色（薄茶/亜麻色）とし、明るく温かい駅前輪場利用環境を持たせつつ、町家への呼応としての建築を考えた。  
駅前ひろばに建つこの駅前輪場は、古い城下町へと続く街並みへの誘いとなる。

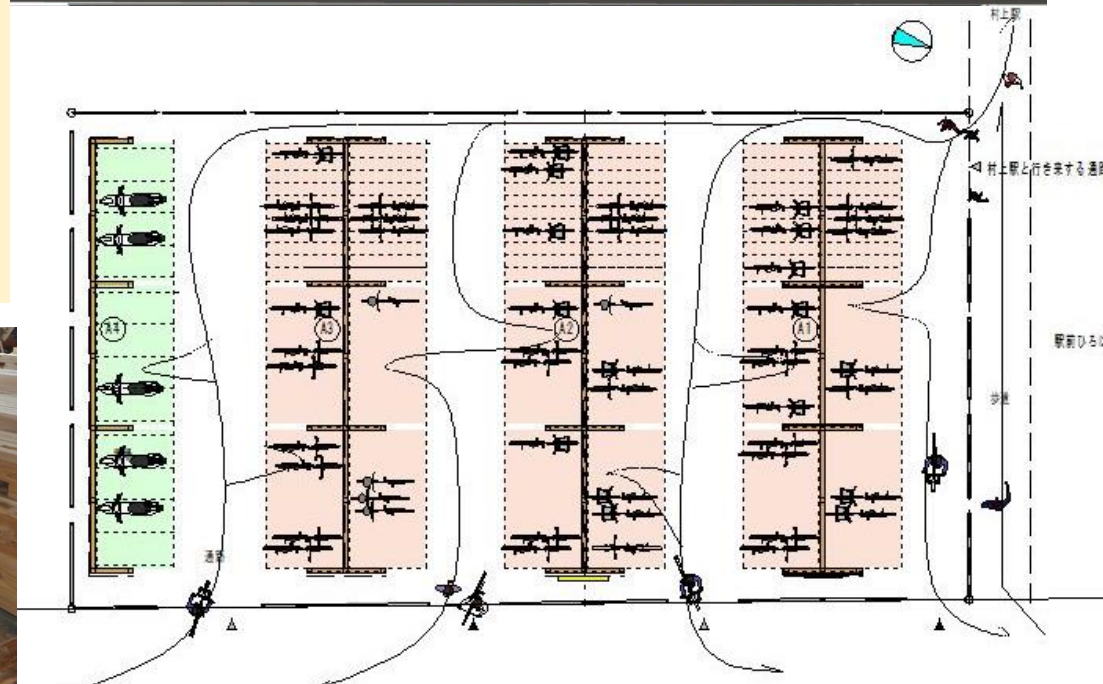


街並みへ誘う駅前輪場



### 地域木材の見せ方

新潟は木材資源に恵まれている。しかし節が若干多く、正角化粧材としては少し使いづらい面もある。  
木材を少し着色（薄茶/亜麻色）し、節の赤身を抑えつつ木質感を残すことで、地域材を化粧材としてすべて見せ、地域材の節の多さも気にならない使い方として提案した。



伝統—今の息吹携えて次代へ伝えられるもの

伝統的な村上大工の手加工で、太め貫工法込み栓打ち・渡り顎・追っ掛け大栓継ぎ・重ねほぞ加工で構成し、厚板化粧野地板で水平剛性を確保。見え掛かりは SUS アンカーボルト以外、金物を使用していない。